国際講演会開催記録

※CP：Contact Person

第1回 1981 昭和56	講演者	Dr. Arthur C. Upton (1923.2.27生)	
	所属	アメリカ　ニューヨーク大学環境医学研究所　所長	
	滞在期間	1981.9.19-10.13　25日間	
	CP	田ノ岡 宏　国立がんセンター研究所　部長	
	演題および開催地	The Role of DNA Damage in Radiation and chemical Carcinogenesis 放射線および化学発がんにおけるDNA損傷の役割	東京
		A Strategy for the Prevention of Cancer がんの予防についての対策	札幌
		Cancer Prevention: Lessons from Our Experience with Radiation がんの予防-放射線についての我々の経験からの教訓	佐賀
		Evolving Perspectives on the Causes and Prevention of Cancer がんの起因とその予防についての展望	東京
		Radiation Carcinogenesis: Problems and Paradoxs 放射線発がんの問題点とパラドックス	京都
		Approaches to the Prevention of Cancer: Pathways and Pitfalls がん予防への道-その道程と陥し穴	金沢
第2回 1982 昭和57	講演者	Dr. James A. Miller (1915.5.27生) Dr. Elizabeth C. Miller (1920.5.2生)	
	所属	アメリカ　ウィスコンシン大学マッカードル癌研究所　教授	
	滞在期間	1982.11.6-11.21　16日間	
	CP	田ノ岡 宏　国立がんセンター研究所　部長	
	演題および開催地	Studies on the Metabolic Activation of Naturally Occurring Carcinogens: Alkenylbenzene Derivatives and Ethyl Carbamate 自然界に存在する発癌物質（アルケニルベンゼン誘導体およびエチルカーバメイト）の代謝活性化に関する研究	東京 名古屋 岡山
		Metabolic Activation and DNA adducts of chemical Carcinogens 化学発がん物質の代謝活性化とDNA結合物	滋賀 東京
		The Initiation and Promotion Stages of Chemical Carcinogenesis 化学発がんにおけるイニシエーションとプロモーションの段階	静岡
第3回 1983 昭和58	講演者	Sir Richard Doll (1912.10.28生)	
	所属	イギリス　オックスフォード大学グリーンカレッジ　学長	
	滞在期間	1983.10.8-10.31　24日間	
	CP	田ノ岡 宏　国立がんセンター研究所　部長	
	演題および開催地	The Prevention of Cancer: Practical Prospects 癌の予防-その実生活における見通し	東京 仙台 秋田 名古屋 長崎 京都

第4回 1984 昭和59	講演者	Dr. Bruce N. Ames (1928.12.16生)	
	所属	アメリカ　カリフォルニア大学バークレー校　主任教授	
	滞在期間	1984.5.12-5.28　17日間	
	C　P	田ノ岡 宏　国立がんセンター研究所　部長	
	演題および開催地	Dietary Carcinogens and Anticarcinogens: Oxygen Radicals and Degenerative Diseases 食品に含まれる発がん物質と抗発がん物質-酸素ラジカルと変性疾患	東京 札幌 金沢 徳島 岡山
第5回 1985 昭和60	講演者	Dr. Manfred F. Rajewsky (1934.7.24生)	
	所属	西ドイツ　エッセン大学細胞生物学研究所　所長	
	滞在期間	1985.10.11-10.24　14日間	
	C　P	田ノ岡 宏　国立がんセンター研究所　部長	
	演題および開催地	Carcinogenesis in the Developing Nervous System: Molecular and Cellular Aspects 発展しつつある神経組織における発がんの機構-分子および細胞面での様相	東京 前橋 広島 大阪
第6回 1986 昭和61	講演者	Dr. George Klein (1925.7.28生)	
	所属	スウェーデン　カロリンスカ研究所　教授	
	滞在期間	1987.3.1-3.11　11日間	
	C　P	寺田 雅昭　国立がんセンター研究所　部長	
	演題および開催地	Multistep Scenarios in Tumor Development 多段階発がんに関する研究	東京 福岡 浜松
第7回 1987 昭和62	講演者	Dr. Henry C. Pitot (1930.5.12生)	
	所属	アメリカ　ウィスコンシン大学マッカードル癌研究所　所長	
	滞在期間	1988.3.1-3.13　13日間	
	C　P	高山 昭三　国立がんセンター研究所　所長	
	演題および開催地	Quantitative Studies of Multistage Hepatocarcinogenesis 多段階的肝がん発生に関する研究	東京
		Studies of Multistage Hepatocarcinogenesis in vivo and invitro 生体内・生体外における多段階的肝発がん発生に関する研究	札幌
		Hepatic Carcinogenesis 肝発がん	金沢
		Studies on the Regulation and Structure of the Rat Lover Serine Dehydratase Gene, mRNA and Protein ラット肝のセリンデヒドラターゼ遺伝子、メッセンジャーＲＮＡおよび蛋白の構造と調節機構の研究	徳島

第8回 1988 昭和63	講演者	Dr. Brian MacMahon (1923.8.12生)	
	所属	アメリカ　ハーバード大学　教授	
	滞在期間	1989.2.22-3.8　15日間	
	C　P	渡辺 昌　国立がんセンター研究所　部長	
	演題および開催地	Prevention of Cancer: Role of Epidemiology 癌の予防-疫学の役割	東京 名古屋 福岡 大阪
第9回 1989 平成1	講演者	Dr. Pelayo Correa (1927.7.3生)	
	所属	アメリカ　ルイジアナ州立大学　教授	
	滞在期間	1989.11.19-11.28　10日間	
	C　P	江角 浩安　国立がんセンター研究所　部長	
	演題および開催地	The Cause of Gastric Cancer: A Multidisciplinary Approach 胃癌の原因-集学的研究	広島 奈良 名古屋 東京
第10回 1990 平成2	講演者	Dr. Ruth Sager (1918.2.7生) Dr. Arthur B. Pardee (1921.7.13生)	
	所属	アメリカ　ハーバード大学　教授	
	滞在期間	1990.10.20-11.4　16日間	
	C　P	横田 淳　国立がんセンター研究所　室長	
	演題および開催地	Tumor Suppressor Genes がん抑制遺伝子 Molecular Studies of Cellular Growth Control 細胞増殖調節機構に関する分子生物学的研究	東京 松本 大阪 京都
第11回 1991 平成3	講演者	Sir Michael Stoker (1918.7.4生)	
	所属	イギリス　王室がん研究財団研究所　名誉所長	
	滞在期間	1992.4.12-4.19　8日間	
	C　P	寺田 雅昭　国立がんセンター研究所　副所長	
	演題および開催地	Cytokine Regulation of the Movement of Normal Cells and Tumor Cells サイトカインによる正常細胞及びがん細胞の動きに対する制御 Contact Suppression of Tumor Cells 接触によるがん細胞の増殖の制御	東京
		Motogenic cytokines: Regulation of Cell Motility 細胞運動促進性サイトカイン-細胞運動の調節	福岡

第12回 1992 平成4	講演者	Dr. Lorenzo Tomatis (1959.1.2生)	
	所属	フランス　国際がん研究所　所長	
	滞在期間	1993.3.20-3.28　9日間	
	C　P	寺田 雅昭　国立がんセンター研究所　所長	
	演題および開催地	The Varying Emphasis over Time on the Role of Environmental Risks for Human Cancer ヒトがん発生における環境危険因子の重要性に関する時代的変遷	東京 名古屋 広島
第13回 1993 平成5	講演者	Dr. Lee W. Wattenberg (1921.12.22生)	
	所属	アメリカ　ミネソタ大学医学部　教授	
	滞在期間	1994.2.7-2.17　11日間	
	C　P	寺田 雅昭　国立がんセンター研究所　所長	
	演題および開催地	Chemoprevention of Cancer がんの化学予防	京都 奈良 東京
第14回 1994 平成6	講演者	Dr. Allan H. Conney (1930.3.23生)	
	所属	アメリカ　ラッガーズ・ニュージャージー州立大学薬学部　教授	
	滞在期間	1994.10.9-10.18　10日間	
	C　P	西野 輔翼　国立がんセンター研究所　部長	
	演題および開催地	Pharmacological Implications of Microsomal Enzyme Induction ミクロソーム酵素誘導の薬理学的意義	札幌
		Inhibitory Effects of Dietary Chemicals on Carcinogenesis 食品中化学物質の発がん抑制効果	東京 静岡
第15回 1995 平成7	講演者	Dr. Peter K. Vogt (1932.3.10生)	
	所属	アメリカ　スクリプス研究所　部長	
	滞在期間	1995.11.8-11.22　15日間	
	C　P	寺田 雅昭　国立がんセンター研究所　所長	
	演題および開催地	Transcriptional Control and Cancer 転写制御とがん	大阪 金沢 東京
第16回 1996 平成8	講演者	Dr. Alfred G. Knudson, Jr.　(1922.8.9生)	
	所属	アメリカ　フォックスチェイスがんセンター	
	滞在期間	1997.3.2-3.13　12日間	
	C　P	横田 淳　国立がんセンター研究所　部長	
	演題および開催地	Hereditary Cancer 遺伝性腫瘍	東京 熊本 兵庫

第17回 1997 平成9	講演者	Dr. Inder M. Verma (1947生)	
	所属	アメリカ　ソーク研究所　教授	
	滞在期間	1998.3.12-3.18　7日間	
	C　P	寺田 雅昭　国立がんセンター研究所　所長	
	演題および開催地	Gene Therapy: Progress and Problems 遺伝子治療-進歩と問題点	金沢 京都 東京
第18回 1998 平成10	講演者	Dr. Philip C. Hanawalt (1931.4.25生)	
	所属	アメリカ　スタンフォード大学　教授	
	滞在期間	1999.3.1-3.11　11日間	
	C　P	横田 淳　国立がんセンター研究所　部長	
	演題および開催地	DNA Repair and Human Genetic Disease DNA修復とヒトの遺伝性疾患	東京 仙台 熊本
第19回 1999 平成11	講演者	Dr.Harald zur Hausen (1936.3.11生)	
	所属	ドイツ　ドイツがんセンター　研究所長	
	滞在期間	1999.10.20-10.26　7日間	
	C　P	広橋 説雄　国立がんセンター研究所　所長	
	演題および開催地	Virus-linked carcinogenesis: a wide spectrum of differnat mechanistic contributions ウイルスによる発がん、その他様なメカニズム	東京
		Pathogenesis of Papillomavirus-linked Human Cancers パピローマウイルスに関連したヒトがんの病因	熊本
		Cancers of the Hematopoietic System: A Model for Cancer-causation by Infectious Agents? 造血器系のがん-感染病による発がんのモデル	名古屋
第20回 2000 平成12	講演者	Dr. Gerald N. Wogan (1930.1.11生)	
	所属	アメリカ　マサチューセッツ工科大学　教授	
	滞在期間	2001.3.4-3.16　13日間	
	C　P	中釜 斉　国立がんセンター研究所　部長	
	演題および開催地	Genotoxicity of Nitric Oxide: Evidence from *in vitro* and *in vivo* Models *In vitro* および *in vivo* 実験モデルにおける窒素酸化物の遺伝子毒性の証拠	東京 岡山
		Aflatoxin as a Human Liver Carcinogen: A Paradigm for Molecular epidemiology ヒト肝臓に対する発がん物質アフラトキシン-分子疫学的研究のひとつのモデル	奈良

第21回 2001 平成13	講演者	Dr. Robert A. Weinberg	
	所属	アメリカ　ホワイトヘッド医学生物学研究所　研究員	
	滞在期間	2002.3.3-3.9　7日間	
	CP	村上 善則　国立がんセンター研究所　室長	
	演題および開催地	Genetic Rules Governing Human Cancer Cell Formation ヒト細胞のがん化を支配する遺伝子の法則	東京 札幌 京都
第22回 2002 平成14	講演者	Dr. Cartis C. Harris	
	所属	アメリカ　国立がん研究所　部長	
	滞在期間	2002.11.3-11.13　11日間	
	CP	横田　淳　国立がんセンター研究所　部長	
	演題および開催地	p53, Inflammation, and Cancer p53、炎症とがん	東京
		Molecular Epidemiology of Human Cancer ヒトがんの分子疫学	浜松
		Gene-Environment Interactions of Cancer がんにおける遺伝子と環境の相互作用	沖縄
2003 平成15		講演者の都合により延期	
第23回 2004 平成16	講演者	Dr. Kenneth Olden	
	所属	アメリカ　国立衛生研究所 国立環境健康科学研究所 所長	
	滞在期間	2004.10.3-10.11　9日間	
	CP	若林　敬二　国立がんセンター研究所　副所長	
	演題および開催地	Toxicogenomics: New Tools for Studying Pathways to Disease トキシコゲノミクス：病気発生への経路を探る新しい研究手法	東京 名古屋 米子

第24回 2004 平成16 H15延期分	講演者	Dr. Andrew C. von Eschenbach	
	所属	アメリカ　国立がん研究所 所長	
	滞在期間	2005.2.19-2.22　4日間	
	CP	垣添　忠生　国立がんセンター　総長	
	演題 および 開催地	The Future: A Time When No One Suffers or Dies from Cancer 誰もがんに罹らず、がんで死なない時を目指して	東京
第25回 2005 平成17	講演者	Dr. Lawrence A. Loeb	
	所属	アメリカ　ワシントン大学　教授	
	滞在期間	2005.10.9-10.20　12日間	
	CP	益谷　美都子　国立がんセンター研究所　プロジェクトリーダー	
	演題 および 開催地	Creation of Enzymes for Biochemistry in Cancer Gene Therapy 生化学的がん遺伝子治療における新規酵素の創製	千葉
		Mutator Phenotype in Cancer がんにおけるミューテーター形質	東京
		Mutations in Cancer and Aging がんと老化における変異	熊本
第26回 2006 平成18	講演者	Dr. Steven R. Tannenbaum	
	所属	アメリカ　マサチューセッツ工科大学　教授	
	滞在期間	2007.3.9-3.18　12日間	
	CP	戸塚　ゆ加里　国立がんセンター研究所　研究員	
	演題 および 開催地	The Role of Nitric Oxide in the Pathophysiology of Cancer がんの病態生理学における一酸化窒素の役割	東京 大阪 熊本

第27回 2007 平成19	講演者	Dr. Mary-Claire King	
	所属	アメリカ　ワシントン大学　教授	
	滞在期間	2007.10.27-11.6　11日間	
	CP	西村　暹	
	演題 および 開催地	Genomic Analysis of Inherited Breast and Ovarian Cancer 遺伝性乳がんおよび卵巣がんのゲノム解析	東京 京都 札幌
第28回 2008 平成20	講演者	Dr. Mary J. C. Hendrix	
	所属	アメリカ　ノースウェスタン大学チルドレンズメモリアル研究センター総長および研究所長	
	滞在期間	2008.10.18-10.25　8日間	
	CP	西村　暹	
	演題 および 開催地	Reprogramming Metastatic Tumor Cells with an Embryonic Microenvironment: Convergence of Embryonic and Tumorigenic Signaling Pathways 胚微小環境による転移性悪性腫瘍のリプログラミング： 腫瘍と胚細胞におけるシグナル伝達の相似性	東京 京都 奈良
第29回 2009 平成21	講演者	Dr. Jan-Åke Gustafsson	
	所属	スウェーデン　カロリンスカ研究所教授・学科長 アメリカ　ヒューストン大学核内受容体・細胞情報センター長 同大学Robert A. Welch記念教授	
	滞在期間	2009.7.27－8.6　11日間	
	CP	中釜　斉	
	演題 および 開催地	Nuclear Receptors and Cancer 核内受容体とがん	東京 埼玉 札幌

第30回 2010 平成22	講演者	Dr. Charles L. Sawyers	
	所属	アメリカ　メモリアルスローンケタリングがんセンター プログラム長・ハワード・ヒューズ医学研究所研究員	
	滞在期間	2010.12.18－12.31　14日間	
	CP	西村　暹	
	演題 および 開催地	Overcoming Resistance to Targeted Cancer Therapies 分子標的制がん剤に対する耐性の克服	東京 京都 名古屋
第31回 2011 平成23	講演者	Dr. Thomas A. Kunkel	
	所属	アメリカ　米国国立環境保健科学研究所 室長兼プログラム部長	
	滞在期間	2011.10.9－10.19　11日間	
	CP	西村　暹	
	演題 および 開催地	DNA Replication Infidelity and Cancer DNA複製時の読み間違えと発がん	東京 奈良 福岡
第32回 2012 平成24	講演者	Dr. Rudolf Jaenisch	
	所属	アメリカ　マサチューセッツ工科大学教授 ホワイトヘッド研究所研究員	
	滞在期間	2012.11.21－12.2　12日間	
	CP	西村　暹	
	演題 および 開催地	Stem Cells, Pluripotency and Nuclear Reprogramming 幹細胞、その多様性と細胞核のリプログラム	東京 京都 沖縄
第33回 2013 平成25	講演者	Dr. Stephen B. Baylin	
	所属	アメリカ　ジョンズホプキンス大学医学部 シドニーキメル総合癌センター教授・センター長代行	
	滞在期間	2013.10.20－10.30　11日間	
	CP	西村　暹	
	演題 および 開催地	Exploring the Cancer Epigenome - Biology Insights and Translational Potential がんエピジェネティクス の研究―その生物学的意義とがん治療への応用の可能性	東京 京都 福岡

第34回 2014 平成26	講演者	Dr. Arthur P. Grollman	
	所属	アメリカ ストーニーブルック大学薬理学部特別教授	
	滞在期間	2014.12.1－12.12　12日間	
	C P	西村　暹	
	演題 および 開催地	Mutational Signature of Aristolochic Acid as a Biomarker for Human Cancer：Harbinger of an Environmental and Global Disease 環境変異原物質、アリストロキア酸による遺伝子変異の特異性の同定―そのバイオマーカーとして、今後グローバルに起こるであろうヒト腎がん発症の予測	つくば 静岡 津
第35回 2015 平成27 (年度)	講演者	Dr. Rakesh K. Jain	
	所属	アメリカ マサチューセッツ総合病院放射線腫瘍学部E. L. Steel研究室所長	
	滞在期間	2016.2.11－2.22　12日間	
	C P	江角浩安	
	演題 および 開催地	Reengineering the Tumor Microenvironment to Improve Cancer Treatment: Bench to Bedside がん治療を向上させるために腫瘍内微小環境を再構築する―実験台からベッドサイドへ	東京 仙台 京都
第36回 2016 平成28 (年度)	講演者	Dr. Tak W. Mak	
	所属	カナダ プリンセスマーガレットがんセンターキャンベルファミリー乳がん研究所所長	
	滞在期間	2016.11.27－12.7　11日間	
	C P	土原一哉	
	演題 および 開催地	Future Anti-Cancer Target: Put the Cart Before the Horses これからのがん治療標的―馬車馬の前に荷車をつなげ	東京 福岡 大阪
第37回 2017 平成29 (年度)	講演者	Dr. Hans Clevers	
	所属	オランダ ヒュブレヒト研究所分子遺伝学教授	
	滞在期間	2017.11.2－11.11　10日間	
	C P	佐藤俊朗	
	演題 および 開催地	Stem Cell-grown Organoids as Models for Human Disease 幹細胞オルガノイド技術によるヒト疾患モデル	東京 大阪 京都

第38回 2019 令和元 (年度)	講演者	Dr. Lewis C. Cantley	
	所属	アメリカ ワイル・コーネル大学サンドラ・エドワード・メイヤーがんセンター所長	
	滞在期間	2019.5.13－5.23　11日間	
	C P	佐谷秀行	
	演題および開催地	PI 3-Kinase and Human Diseases PI3キナーゼとヒト疾患	東京 広島 京都
第39回 2019 令和元 (年度)	講演者	Dr. Elaine Fuchs	
	所属	アメリカ　ロックフェラー大学哺乳類細胞発生生物学研究室教授	
	滞在期間	2019.5.22－6.9　19日間	
	C P	岡本康司	
	演題および開催地	Skin Stem Cells: Coping with Stress, Inflammation and Cancer 皮膚の幹細胞：ストレス、炎症、がん化への関与	東京 札幌 京都